

厚生労働省
群馬労働局発表
平成29年4月27日

【照会先】

群馬労働局労働基準部健康安全課
課長 佐藤 寿
課長補佐 大友 隆
産業安全専門官 塩野 泉
(電話) 027-896-4736

労働災害の発生状況について

—平成28年の死亡者数が14人—

厚生労働省群馬労働局（局長 半田和彦）管内の労働災害発生状況は、平成28年においては、労働災害による休業4日以上死傷者数（以下「死傷者数」という。）が前年比177人（8.1%）増の2,359人、死亡者数は前年比3人増の14人となりました。

死傷者数の増加は、建設業以外のすべての業種にみられ、増加の大きかった業種は、製造業の中の食料品製造業と、道路貨物運送業でした。

また、事故の型別では「転倒災害」、「墜落・転落」、「はさまれ・巻き込まれ」、「動作の反動、無理な動作」で死傷者数全体の過半数を占め、被災者の年齢別では40歳以上の中高年齢者で約7割以上を占めている状況が見られました。

1 平成28年の労働災害の発生状況

平成28年1月から12月までの労働災害は、死傷者数は2,359人と前年に比べ177人増加（増加率8.1%）し、平成26年とほぼ同数の件数となりました。

死亡者数は14人で前年に比べ3人増加しました。

（図表1から図表5参照）

（1）業種別

ア 死傷者数が多い業種

業種別	死傷者数	前年同期比 増減数	増減率	全産業に占める割合	
製造業	772	63	8.9%	32.7%	
食料品	239	47	24.5%	製造業 に占め る割合	31.0%
金属製品	123	12	10.8%		15.9%
輸送用機械器具	93	1	1.1%		12.0%
建設業	209	-37	-15.0%	8.9%	
土木工事	64	3	4.9%	2.7%	
建築工事	118	-28	-19.2%	5.0%	
その他の建設	27	-12	-30.8%	1.1%	
運輸交通・貨物取扱業	350	44	14.4%	14.8%	
道路貨物運送	295	40	15.7%	12.5%	
商業	330	32	10.7%	14.0%	
小売業	270	34	14.4%	11.4%	
保健衛生業	180	15	9.1%	7.6%	
社会福祉施設	131	11	9.2%	5.6%	
その他	518	60	13.1%	22.0%	
合計	2,359	177	8.1%	100.0%	

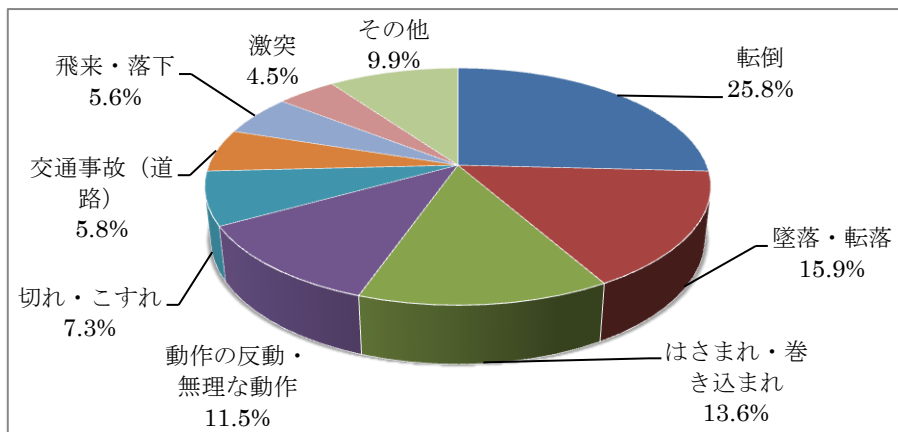
イ 死亡災害発生状況

業種	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
製造業	5	3	3
建設業	12	3	3
運輸交通・貨物取扱業	3	0	2
農林業	1	0	1
商業	3	1	1
保健衛生業	0	1	0
接客娯楽業	2	1	1
その他	1	2	3
合 計	27	11	14

(2) 事故の型別の状況

ア 全産業

業種	転倒	墜落・転落	はさまれ・巻き込まれ	動作の反動・無理な動作	切れ・こすれ	交通事故(道路)	飛来・落下	激突	その他	合計
全産業	609	376	321	272	172	138	132	106	233	2,359
割合	25.8%	15.9%	13.6%	11.5%	7.3%	5.8%	5.6%	4.5%	9.9%	100.0%
前年増減比	22.3%	10.9%	-5.9%	11.0%	20.3%	11.3%	18.9%	-1.9%	-14.7%	8.1%



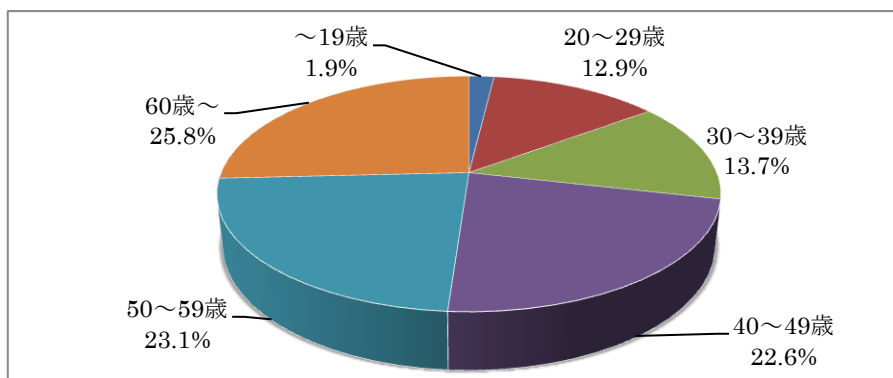
イ 死傷者数が多い業種

	転倒	墜落・転落	はさまれ・巻き込まれ	動作の反動・無理な動作	切れ・こすれ	交通事故(道路)	飛来・落下	激突	その他	合計
製造業	187	73	187	79	76	4	53	33	80	772
割合	24.2%	9.5%	24.2%	10.2%	9.8%	0.5%	6.9%	4.3%	10.4%	100.0%
前年増減比	47.2%	7.4%	-12.2%	19.7%	43.4%	33.3%	17.8%	10.0%	-23.1%	8.9%
建設業	22	66	30	17	22	7	22	9	14	209
割合	10.5%	31.6%	14.4%	8.1%	10.5%	3.3%	10.5%	4.3%	6.7%	100.0%
前年増減比	0.0%	-16.5%	-3.2%	41.7%	-21.4%	16.7%	10.0%	-10.0%	-63.2%	-15.0%
運輸交通・貨物取扱業	59	97	32	44	6	30	23	25	34	350
割合	16.9%	27.7%	9.1%	12.6%	1.7%	8.6%	6.6%	7.1%	9.7%	100.0%
前年増減比	22.9%	7.8%	-3.0%	37.5%	-14.3%	50.0%	21.1%	-10.7%	17.2%	14.4%
卸売・小売業	96	37	21	33	28	44	13	9	25	306
割合	31.4%	12.1%	6.9%	10.8%	9.2%	14.4%	4.2%	2.9%	8.2%	100.0%
前年増減比	20.0%	37.0%	0.0%	-8.3%	27.3%	2.3%	44.4%	-25.0%	8.7%	12.1%
社会福祉施設	54	12	5	38	2	4	1	5	10	131
割合	41.2%	9.2%	3.8%	29.0%	1.5%	3.1%	0.8%	3.8%	7.6%	100.0%
前年増減比	17.4%	50.0%	400.0%	-5.0%	100.0%	300.0%	100.0%	-16.7%	-41.2%	9.2%

(3) 年齢別の状況

ア 全産業

業種	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～	計
全産業	45	305	324	532	545	608	2,359
割合	1.9%	12.9%	13.7%	22.6%	23.1%	25.8%	100.0%
前年増減比	-4.3%	4.5%	-6.9%	11.3%	7.3%	19.4%	8.1%

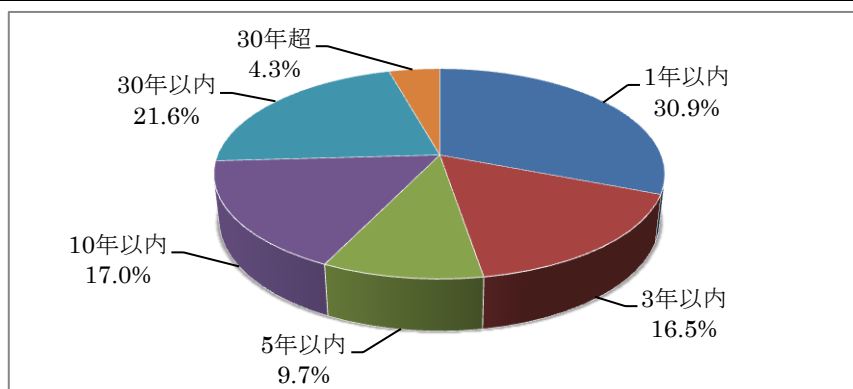


イ 死傷者が多い業種

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～	計
製造業	16	109	132	183	158	174	772
割合	2.1%	14.1%	17.1%	23.7%	20.5%	22.5%	100.0%
前年増減比	-20.0%	-14.2%	9.1%	22.0%	9.0%	19.2%	8.9%
建設業	8	37	45	38	31	50	209
割合	3.8%	17.7%	21.5%	18.2%	14.8%	23.9%	100.0%
前年増減比	-38.5%	0.0%	-10.0%	-13.6%	-13.9%	-24.2%	-15.0%
運輸交通・貨物取扱業	3	27	47	126	89	58	350
割合	0.9%	7.7%	13.4%	36.0%	25.4%	16.6%	100.0%
前年増減比	0.0%	8.0%	-9.6%	43.2%	-6.3%	34.9%	14.4%
卸売・小売業	7	38	35	48	93	85	306
割合	2.3%	12.4%	11.4%	15.7%	30.4%	27.8%	100.0%
前年増減比	75.0%	35.7%	-25.5%	-18.6%	31.0%	32.8%	12.1%
社会福祉施設	1	12	17	24	32	45	131
割合	0.8%	9.2%	13.0%	18.3%	24.4%	34.4%	100.0%
前年増減比	0.0%	-7.7%	54.5%	-11.1%	-28.9%	95.7%	9.2%

(4) 経験年数別の状況

	1年以内	3年以内	5年以内	10年以内	30年以内	30年超	合計
全産業	729	389	230	400	509	102	2,359
割合	30.9%	16.5%	9.7%	17.0%	21.6%	4.3%	100.0%
前年増減比	12.2%	1.6%	6.0%	10.5%	11.9%	-11.3%	8.1%



2 労働災害の防止に向けた取組

群馬労働局では、県内の死傷者数の約4分の1を占める転倒災害について、全業種共通の災害防止対策として「STOP! 転倒災害プロジェクト」を推進し、特に1～3月の冬期間と6月を「転倒災害防止強調期間」として、個別指導、集団指導時等あらゆる機会をとらえ、リーフレット等の配布をはじめとし労働者1人1人の安全意識の高揚に努めることとしています。

道路貨物運送業においてはトラック荷台上での荷扱い時等に多発している墜落・転落災害について、荷台からの墜落・転落防止対策として、荷台上にスタンション等の設置、保護帽着用の徹底、荷台への安全な昇降設備の使用等を周知することとしています。

社会福祉施設においては、職員等が要介助者対応中に動作の反動・無理な動作により、腰痛等の災害が増加傾向にあり、介助支援器具等の導入及び使用、複数人による介助作業の徹底を中心として災害防止対策を推進することとしています。

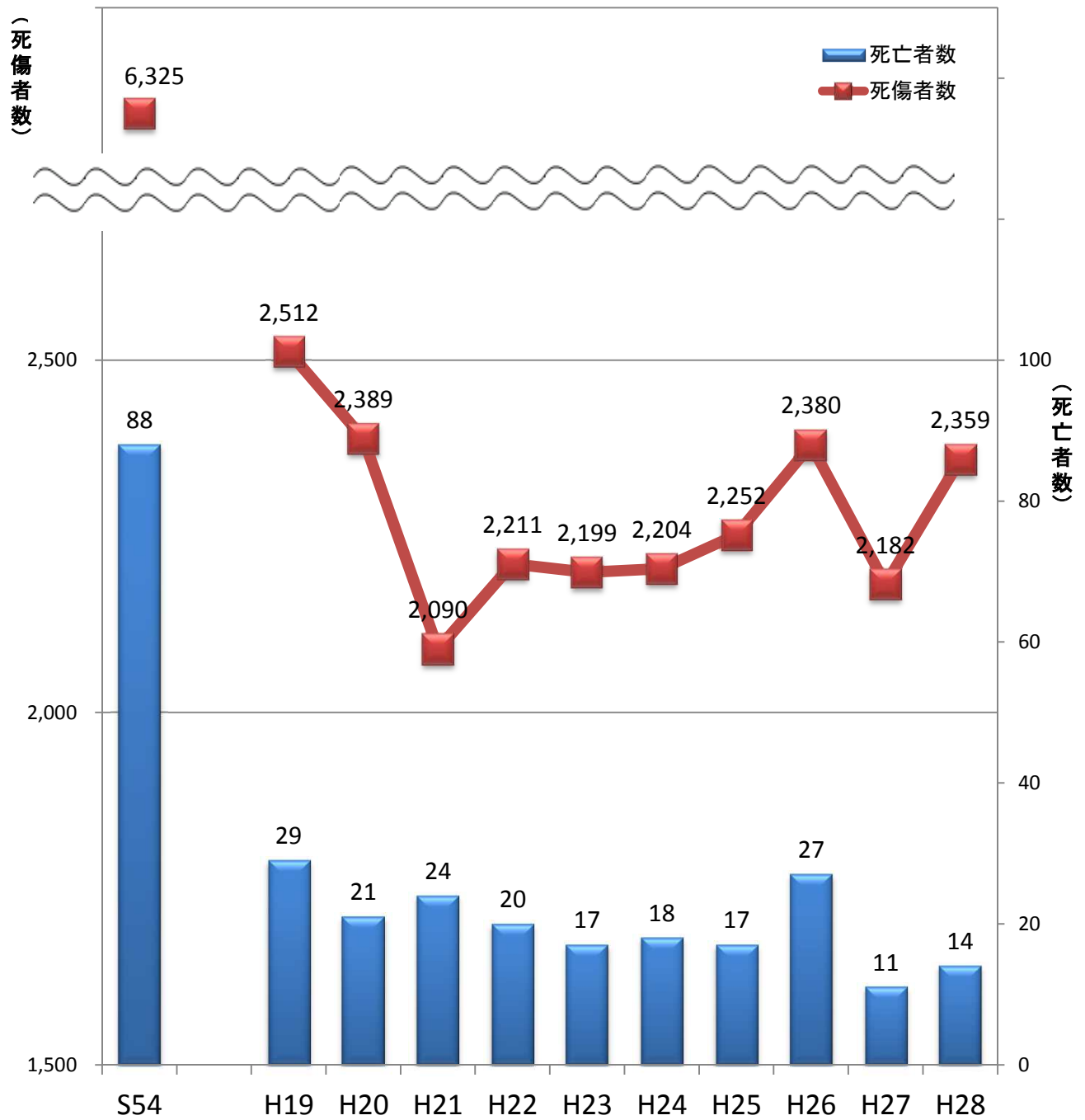
また、近年の労働者の高年齢化に伴い、高齢者の働きやすい職場環境づくりとして、通路等の段差の解消（バリアフリー化）、作業場所の照度の確保、重筋作業を軽減する補助器具等の積極的な導入等を推進することとしています。

その他、近年、労働災害が増加傾向にある小売業については、なにより事業者（経営者）の安全意識の高揚が必要であり、様々な機会をとらえ労働災害防止の必要性等について周知啓発を図ることとしています。

本年度は第12次労働災害防止計画（平成25年～平成29年の5年間）の最終年度にあたり、目標としている数値の達成に向け労働局、各監督署と連携し災害防止に取り組むこととしています。

図表1

群馬労働局管内における労働災害の推移



平成28年 労働者死傷病報告受理件数表

図表2

平成29年3月末確定

群馬労働局

業種別	署別	高崎	前橋	桐生	太田	沼田	藤岡	中之条	群馬局計	前年同期	増減	
製造業		148	1 280	41	1 219	24	42	1 18	3 772	3 709	63	
食料品		37	125	6	48	6	14	3	239	192	47	
金属製品		27	36	10	37	3	8	2	123	111	12	
輸送用機械器具		8	23	5	52	2	2	1	93	92	1	
鉱業				1				1	2		2	
建設業		55	2 70	13	1 42	9	15	5	3 209	3 246	-37	
土木工事		19	18	5	12	2	7	1	64	1 61	-1 3	
建築工事		29	44	6	23	6	7	3	118	2 146	-2 -28	
その他の建設		7	8	2	7	1	1	1	27	39	-12	
交通運輸・貨物取扱業		56	1 147	16	101	12	12	6	1 350	2 306	2 44	
道路貨物運送業		37	1 131	15	87	11	9	5	1 295	2 255	2 40	
林業		8	1	9			5	1 7	1 30	37	1 -7	
上記以外の事業		1 225	3 416	(1)	68	161	41	40	1 45	5 996	(1) 884	112
卸売業・小売業		57	1 147	19	42	13	19	9	1 306	1 273	33	
通信業		20	22	6	16	1	3	2	70	50	20	
医療保健業・ 社会福祉施設		42	73	15	33	7	3	3	176	1 159	(1) 17	
旅館・ホテル業		5	14	2	2	5	1	10	39	33	6	
計		1 492	7 914	(1)	2 523	86	114	3 82	14 2,359	(1) 2,182	3 177	
前年同期		2 470	3 792	1 138	2 514	(1) 100	2 94	1 74	11 2,182	(1)		
増減		-1 22	4 122	(1)	-1 9	(-1)	-2 20	1 8	3 177			

災害の種類別

災害の種類別・署別	高崎	前橋	桐生	太田	沼田	藤岡	中之条	群馬局計	前年同期	増減
転倒災害	114	301	42	82	21	23	26	609	498	111

注1 この表は、死亡及び休業4日以上の労働者死傷病報告を集計しています。

2 各項目の下欄は死傷者数合計、上欄は死亡者数で下欄の数の内数です。

3 下の表は災害の種類別で、特に項目を設定して集計しています。

4 各項目の()内は、脳・心臓疾患、精神疾患の死亡者数で内数です。

図表3

平成28年死亡災害事例（建設業以外）

平成29年3月末確定
群馬労働局

番号	発生月 発生時間帯 労働者数	年齢 性別 職種	災害のあらまし	業種	事故の型別	起因物別
1	1月 9時頃 15人	40歳代 男 作業員	NC旋盤で機械器具の部品（直径6.3mm、長さ215mm）加工後、バリ取りのため、旋盤のカバーを開け回転中の加工物にサンドペーパーを押し当てていたところ、着衣の一部ごと巻き込まれ、頭部を強く打ち死亡した。	機械器具製造業	はさまれ・巻き込まれ	旋盤
2	1月 8時頃	50歳代 男	自宅から事業場への通勤途中に体調の異変により自ら救急車を呼び、病院に搬送され心臓の治療を受けたが、同日死亡した。	産業廃棄物処理業	その他	起因物なし
3	2月 13時頃 49人	50歳代 男 整備係	13トントラック下部にもぐり、車両のグリスアップを行っていたところ、同僚運転手が被災者に気づかずトラックを発進させたためタイヤに轢かれ死亡した。	一般貨物自動車運送業	はさまれ・巻き込まれ	トラック
4	5月 8時頃 24人	50歳代 男 運転者	スキー場内の車庫から同僚が車庫から社用車（ワゴン車）を移動させるため、バックさせていたところ、後部にいた被災者に激突し、転倒した被災者が轢かれ死亡した。	その他の接客娯楽業	はさまれ・巻き込まれ	乗用車、バス、バイク
5	7月 16時頃 2人	80歳代 男 作業員	河川沿いの土手の立木伐採作業中、伐倒した木がつるにからまっていたため、かかり木になり、掛かれた木を切り倒した際、かかり木と共に倒れ、頭部に激突した。	その他の林業	激突され	立木等
6	7月 17時頃 18人	50歳代 男 警備員	丁字路で車両の誘導をしていたところ、後方より走行してきた軽車両にはねられ転倒し、頭部を強打し、5日後に脳挫傷により死亡した。	警備業	交通事故（道路）	乗用車
7	8月 13時頃 92人	40歳代 女 飼育員	1人で軽自動車に乗りパーク園内を巡視中、運転席窓から突然クマが入り込み腹部等をかまれ、収容先の病院で死亡した。	その他の教育研究業	その他	その他の環境等
8	9月 4時頃 21人	30歳代 男 配達員	バイクで新聞配達中、右から交差点に進入してきた軽自動車と衝突し、意識不明の重体であったが、翌日に死亡した。	新聞販売業	交通事故（道路）	乗用車、バス、バイク
9	9月 18時頃 2人	60歳代 男 作業員	積載荷重1.5トンのトラックに1枚約200kgの鋼製扉7枚を積み込み、事業主が鋼製扉の倒壊防止の本締め用クランプを取り付けようと、仮止め用のL字型クランプを外した時に扉がバランスを崩して被災者のいる方に倒壊し頭部を負傷、収容先の病院で死亡した。	その他の金属製品製造業	崩壊・倒壊	トラック
10	10月 15時頃 1人	20歳代 男 修理工	水汚泥分離リサイクル車のタンク下部の油漏れ箇所を修理中、油圧にて上げていたタンク部が突然降下し、タンクとトラック車体の間に挟まれ死亡した。	自動車修理業	挟まれ・巻き込まれ	その他の装置、設備
11	10月 9時頃 43人	30歳代 男 運転者	トラックで荷を運搬し、帰社のためトンネル内を走行中、前方を走行中の農業用トラクターに追突、反動で反対車線のトンネル側壁に激突して死亡した。	一般貨物自動車運送業	交通事故（道路）	トラック

平成28年死亡災害事例（建設業）

平成29年3月末確定
群馬労働局

番号	発生月 発生時間帯 店社人数・現場人数	年齢 性別 職種	災害のあらまし	発注者	事故の 型別	起因物別
1	2月 16時頃 4人	50歳代 男 作業者	建屋解体工事現場で、建屋屋根上に上がり取り外した折板を屋上端部から地面に投げ下ろしていたところ、バランスを崩し高さ約3.1mの地面に墜落した。	民間	墜落・転落	建築物・構築物
2	5月 12時頃 3人	20歳代 男 電工	三相6600Vの受変電設備(キュービクル)の扉が開き、その近くで倒れている被災者が発見された。	地方公共団体	感電	電力設備
3	8月 14時頃 6人	60歳代 男 解体工	木造平屋建て倉庫の解体工事において、屋根上で屋根瓦の撤去作業中、野地板を踏み抜き約6m下のコンクリート床に墜落し、脳挫傷により死亡した。	民間	墜落・転落	屋根

図表4

平成28年 死亡災害発生状況

平成29年3月末確定

群馬労働局

業種 \ 年	26年	27年	28年	対26年比	対27年比
製造業	5 ()	3 ()	3 ()	-2 ()	()
建設業	12 ()	3 ()	3 ()	-9 ()	()
道路貨物運送業	3 ()	()	2 ()	-1 ()	2 ()
小売業	3 ()	1 ()	1 ()	-2 ()	()
社会福祉施設	()	1 (1)	()	()	-1 (-1)
接客娯楽業	2 ()	1 ()	1 ()	-1 ()	()
その他	2 ()	2 ()	4 (1)	2 (1)	2 (1)
計	27 ()	11 (1)	14 (1)	-13 (1)	3 ()

※ () の件数は、脳・心臓疾患，精神障害を内数で表す。

図表5

年別・事故の型別の労働災害発生件数

- 墜落・転落
- 転倒
- 飛来・落下
- 激突され
- はさまれ・巻き込まれ
- 切れ・こすれ
- 交通事故(道路)
- 動作の反動・無理な動作
- その他

